

# 特別授業～柔道から学ぶ 受け身をとって大けが防止

糠内小学校では、2月22日と3月1日、8日の3日間で柔道の受け身を学ぶ特別授業が行われ、3～6年生の児童20人が様々な受け身に挑戦しました。

▼受け身を指導する金野忠さん



繰り返して練習することが大切

糠内小学校の児童らは、フリーの柔道家として国内で活躍している金野忠さん（講道館柔道4段）を講師に、大けがをしないためのポイントを学びました。

学習内容は、平成24年度から武道が必修化された中学校新学習指導要領に基づいて行われ、児童らは、横に転がって

手と足で畳をたたく「横転受け身」やつまずいた時に顔面や腹部を保護するための「前受け身」など、4種類の受け身を体験しました。

金野さんは「転倒時には、とつさに受け身がとれないといけない。繰り返し練習して、身につけてほしい」と児童らに呼びかけ、あごを引くことで頭部を保護することや受け身をする際の手や足の開き方など一つ一つ丁寧に教えていました。

特別授業を体験した山田愛林さん（6年）は「筋肉痛になって大変だった。学んだことを継続して、もっと体を鍛えたい」と感想を語りました。



▲受け身に挑戦する児童

## 糠内小学校今昔物語



▲大正時代の糠内尋常小学校



▲糠内尋常小学校授業風景

糠内小学校の誕生は、糠内地区の開拓の歴史とともにあります。

明治31年、糠内原野に富山県から五位団体が入植し、糠内の開拓が始まりました。

明治33年、入植団体の一人である齊藤密音氏が草小屋布教所を仮教室として、文字どおりの寺子屋式教育を開始。その後、糠内簡易教育所の開設が認可され、齊藤密音氏が初代教員に任命されました。

明治35年6月、校舎が完成し、郷里の名称をとって「五位簡易教育所」と改称しました。この当時の児童数は38人でしたが、毎年のように増加。昭和18年には、最大の280人を記録しています。その後、昭和34年頃までは200人以上を維持していましたが、時代の変革から戸数が減少し、児童数も減少することとなりました。

## 糠内小学校の沿革

- 1900年（明治33年）糠内簡易教育所の開設
- 1908年（明治41年）糠内尋常小学校の指定
- 1910年（明治43年）中里小学校の前身である特別教授場（上糠内）を付属とする
- 1920年（大正9年）駒島小学校の前身である特別教授場（奥糠内）を付属とする
- 1941年（昭和16年）国民学校となり糠内小中学校と改称
- 1952年（昭和27年）糠内中学校が分離
- 1980年（昭和55年）開校80周年記念式典・新校舎の落成式を実施
- 1997年（平成9年）開校100周年記念式典を挙行

### 学校概要

学校長 庄司 克哉  
 教員数 7人  
 学級数 3学級  
 児童数 20人

※概要は平成24年5月1日現在